

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 2 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(S)

研究期間：2009～2013

課題番号：21222002

研究課題名(和文)大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築

研究課題名(英文)Construction of Local Historical Document Studies based on theory of Historical Materials Preservation at The Time of Large-scale Natural Disasters

研究代表者

奥村 弘 (OKUMURA, Hiroshi)

神戸大学・人文学研究科・教授

研究者番号：60185551

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 87,300,000円、(間接経費) 26,190,000円

研究成果の概要(和文)：大規模自然災害と地域社会の急激な構造転換の中で、歴史資料は滅失の危機にある。その保存活用を研究する新たな学として地域歴史資料学の構築をめざした。その成果は、第1に、地域住民もまた保存活用の主体と考え地域歴史資料を次世代につなぐ体系的な研究手法を構築しえたことにある。第2は、それを可能とする具体的な地域歴史資料の保存と修復の方法を組み込んだことである。第3は、科研の中間で起こった東日本大震災での地域歴史資料保存について理念と具体的な方法を提示するとともに、全国的な研究者ネットワークによる支援体制を構築したことである。第4は、地域歴史資料学をグローバルイシューとして国際的に発信したことである。

研究成果の概要(英文)：Perpetual natural disasters and structural changes in the Japanese local communities place a vast number of historical materials existing in the communities at risk for loss or damage. This research was set to establish "local historical document studies". The results are as the followings: 1) Construction of the systematic research method of the materials: we considered not only historical researchers but also locals are key players of the protection and application of the records. 2) Establishment of new concrete methods for preserving and repairing the materials: this is a crucial part of the systematic research method mentioned above. 3) Contribution to the preservation of local historical materials after the Great East Japan Earthquake: our research proposed principles and methods of the saving after the calamity. 4) International publication of the local historical document studies: this project presented the new studies to the world as a global issue.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：地域歴史資料学 資料保全 災害資料 文化財レスキュー 水損資料 災害史 地域史

1. 研究開始当初の背景

阪神・淡路大震災において、歴史研究者を中心に初めての組織的な歴史資料保全活動が行われ、歴史資料ネットワークが結成された。それ以降、隔年規模で起こる大規模な地震や風水害の被災地域で同様な団体が生まれた。以上のような各地の保全活動では、被災状況、地域社会の特質、保全活動の積み重ねなどに即した歴史資料保全論や萌芽的な地域歴史資料学が生み出された。

本研究の開始当初において、地域にいかなる歴史資料が残されており、それをいかに保全し、学術的社会的に活用していくのかを明らかにするための地域歴史資料学の構築は、緊急の課題となっていた。

2. 研究の目的

本研究は、地震・大規模風水害の続発によって地域歴史資料の保全をめぐる問題が集約的に問われることになった被災各地を中心として、歴史資料の現状把握および各地で生まれた歴史資料保全論の比較検討を基盤とし、地域歴史を次世代に引き継ぎ、地域住民の歴史認識を豊かにしうる地域歴史資料学の構築をめざすものである。

3. 研究の方法

本研究では、新たな地域歴史資料学を構築するために、各地の大規模自然災害による被災地の歴史資料保全論に焦点を当てる。そこで、被災地を中心に形成されてきた個別の歴史資料保全論を総括し、現地での調査・ワークショップを含めて集中的に検証するという手法を第一にとった。具体的には、神戸、新潟、宮城などで「被災地フォーラム」として、フィールドワークを含む被災地調査や公開研究会を開催した。

その上で、この歴史資料保全論が歴史資料学の展開の中でいかなる位置にあるのかを把握するとともに、文化財保存科学による被災資料の修復等に関して、特に水損した紙資料に対する新たな技術を基礎とした緊急事態における科学的な歴史資料の保全論に具体的に対応することを通して、次世代の歴史研究を支える新たな地域歴史資料学の構築を目指した。

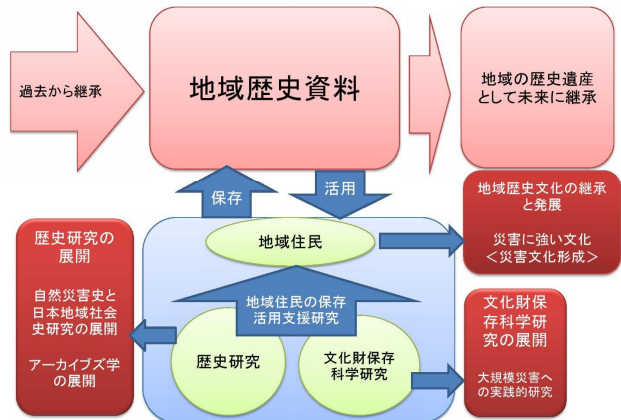
また、ICA(国際文書館評議会)や国際シンポジウムの開催など、積極的な研究成果の海外発信に努めた。

4. 研究成果

研究成果は、第1に、地域歴史資料を過去から未来へと地域社会で継承されていくものとして捉え、研究者のみでなく地域住民もまた地域歴史資料の保存活用の主体と考え、その支援のための研究を含め、地域歴史資料を次世代につなぐ体系的な研究手法を構築しえたことにある。第2は、それを可能とする具体的な地域歴史資料の保存と修復の新たな方法を地域歴史資料学に組み込ん

だことである。第3は、科研の中間で起こった東日本大震災での地域歴史資料保存について、理念と具体的な方法を提示するとともに、全国的な研究者ネットワークによる支援体制を端緒的に構築し、さらにその現場から新たな課題を整理したことである。第4は、世界的に災害と社会変動が拡大する中で、地域歴史資料学構築をグローバルイシューとして国際的に発信したことである。

地域歴史資料学による手法



【構築された地域歴史資料学のあり方】

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計81件)

- 1、奥村弘、現代日本社会における地域歴史資料の保全と地域歴史遺産としての活用についての提言、地域史の固有性と普遍性(佐賀大学地域学歴史文化研究センター)13-23(2013)、査読無
- 2、多仁照廣、敦賀(女子)短期大学における地域歴史民俗調査について、敦賀論叢・敦賀短期大学紀要 84.15-29(2013)、査読無
- 3、多仁照廣、2004年7月、福井水害の史料救済活動から見た“史料の社会的消滅”:池田町古文書収蔵庫をめぐる、災害・復興と資料 2.39-45(2013)、査読無
- 4、小林准士、山陰地方の過疎地における史料保存の課題、災害・復興と資料 2.1-6(2013)、査読無
- 5、平川新、災害と史料保存、日本列島 地震の2000年史、70-77(2013)、査読無
- 6、奥村弘、大震災と地域歴史遺産 災害に強い地域文化形成における大学の役割、名古屋大学大学文書資料室紀要 21.133-164(2013)、査読無
- 7、奥村弘、地域歴史遺産の保存・活用の今日的意味を考える 大規模災害時の歴史資料保全及び災害資料保存活動を中心に、博物館研究 48-10.14-18(2013)、査読有
- 8、佐々木和子、世界の窓 第17回ICA(国際文書館評議会)世界会議 プリスペン大会参加報告、記録と史料 23.38-45(2013)、査読無

- 9、平川新、歴史文化をめぐる多様性の危機、震災復興と生態適応：国連生物多様性の10年とR10+20に向けて（国際書院）125-136（2013）、査読無
- 10、平川新、防災科学研究拠点から災害科学国際研究所へ、東日本大震災を分析する1（地震・津波メカニズムと被害の実態）（明石書店）9-18。（2013）査読無
- 11、矢田俊文、1707年宝永地震による浜名湖北部の沈降と大坂の被害数、GSJ地質ニュース2-7.208-211（2013）、査読無
- 12、内田俊秀、一般社団法人文化財保存修復学会の活動報告、東北地方太平洋沖地震被害文化財等救援委員会平成24年度活動報告書、95-97（2013）、査読無
- 13、内田俊秀、1995年阪神・淡路大震災での文化財救出作業について、災害から文化財を守る（クバプロ）51-58（2013）、査読無
- 14、今津勝紀、日本古代における環境と適応の問題 飢饉と疫病および家族を中心に、日本の科学者48-7.396-401（2013）、査読無
- 15、今津勝紀、仁和3年の地震と平安京社会、条里制・古代都市研究28.30-41（2013）、査読有
- 16、松下正和、2009年台風9号被災資料の保全と活用-佐用郡地域史研究会・佐用町教育委員会との連携、災害・復興と資料2.27-38（2013）、査読無
- 17、矢田俊文、一七〇七年宝永地震と浜名湖北部地域の沈降、資料学研究10.1-14（2013）、査読有
- 18、矢田俊文、1707年宝永地震と大阪の被害、災害・復興と資料2.118-122（2013）、査読有
- 19、松下正和、貞観10年の播磨国大地震、いひほ研究4.4-17（2012）、査読無
- 20、添田仁、東日本大震災歴史資料を守る人を支援するために-ボランティアへの旅費助成について-、史料ネットNews Letter68.8-10（2012）、査読無
- 21、添田仁、地域の宝石川家文書、いぶし銀26.3（2012）、査読無
- 22、矢田俊文、中世・近世の地震災害と「生きていくこと」、日本史研究594.39-51（2012）、査読無
- 23、矢田俊文、文献史料による1833年庄内沖地震の津波到達点の研究-新潟市内を中心に-、資料学研究9.12-22（2012）、査読有
- 24、矢田俊文、地震災害・水害と文化財・歴史資料レスキュー-新潟県を中心に-、秋田県公文書館紀要18.1-16（2012）、査読無
- 25、矢田俊文、一八三三年庄内沖地震の津波史料、災害・復興と資料1.1-8（2012）、査読有
- 26、奥村弘、東日本大震災と歴史学、震災・核災害の時代と歴史学（青木書店）176-192（2012）、査読無
- 27、平川新、東日本大震災と歴史の見方、震災・核災害の時代と歴史学（青木書店）2-21（2012）、査読無
- 28、矢田俊文、東日本大震災と前近代史研究、震災・核災害の時代と歴史学（青木書店）41-50（2012）、査読無
- 29、奥村弘、新潟の取り組みに学ぶ：『災害・復興と資料』1号を読む、災害・復興と資料2.1-5（2012）、査読無
- 30、奥村弘、地震・水害と地域歴史遺産、紀州経済史研究所紀要33.45-54（2012）、査読無
- 31、奥村弘、神戸の記憶・記録とアーカイブズ、情報記録学会誌22.336-343（2012）、査読無
- 32、佐々木和子・水本有香・小川千代子、阪神・淡路大震災から東日本大震災へ-東日本大震災による被災資料の現状と復旧の動きに関する調査、記録管理学会誌63.101-109（2012）、査読無
- 33、足立裕司、二つの地震の間で-東日本大震災と歴史的環境保存、都市問題103.79-86（2012）、査読無
- 34、久留島浩、展示を多くの人々に楽しく観ていただくために、千葉史学61.97-99（2012）、査読無
- 35、坂江涉、自然災害と歴史資料-阪神・淡路大震災後の保全・活用事業の進展、遺跡学研究9.120-127（2012）、査読無
- 36、今津勝紀、東日本大震災以降の各地ネットの動向、岡山地方史研究126.27-29（2012）、査読有
- 37、松下正和・川内淳史、歴史資料ネットワークによる東日本大震災への後方支援活動について-大規模災害における歴史資料保全活動の現状と課題、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会平成23年度活動報告書、282-287（2012）、査読無
- 38、矢田俊文、中世後期の地震と年代記、東北中世史研究会会報22.1-8（2012）、査読無
- 39、矢田俊文、地震直前の民衆の生活、地域文化の歴史を往く 古代・中世から近世へ、349-363（2012）、査読無
- 40、板垣貴志、災害資料の課題と展望-阪神・淡路大震災後の研究蓄積を共有するために、日本史研究597.92-100（2012）、査読有
- 41、平川新、歴史資料と災害への備え、記憶をつなぐ 津波災害と文化遺産、103-111（2012）、査読無
- 42、矢田俊文、近代岩船郡と平林村木村家文書（新潟大学附置地域文化連携センター）76-78, 78-80, 82-83（2010）、査読無
- 43、今津勝紀、既多寺大智度論と針間国造、律令国家史論集（塙書房）、473-495（2010）、査読無
- 44、平川新、歴史資料の保全と古民家、歴史

- 的建築リストの可能性、9-11 (2010)、
査読無
- 45、平川新、前近代の国家と外交-国家の役割を考える-、近世史サマーフォーラム 2009 の記録、1-29 (2010)、査読無
 - 46、奥村弘、被災史料保全から見た地域史像、歴史と神戸 282. 23-40 (2010)、査読無
 - 47、松下正和、歴史資料ネットワークによる水損史料救出活動について" 日本史研究 575. 55-61 (2010)、査読有
 - 48、松下正和、被災史料の救出と地域遺産-風水害への対応を中心に-、歴史と神戸 282. 41-48 (2010)、査読無
 - 49、松下正和、史料ネットによる水損歴史資料保全活動の課題-大量かつ迅速な保全体制の構築にむけて-、災害と資料 5. 8-23 (2010)、査読無
 - 50、坂江涉、阪神・淡路大震災と救済した歴史資料のその後-地域連携と活用・研究の深まり-、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター紀要 LINK 2. 115-128(2010)、査読有
 - 51、市沢哲、「よそ者」の効用-「参加型開発」論に学ぶ「自立」と「当事者性」-、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター紀要 LINK 2. 165-167 (2010)、査読無
 - 52、矢田俊文、1751年越後高田地震による被害分布と震源域の再検討、資料学研究 8. 1-23 (2011)、査読有
 - 53、矢田俊文、一七五一年越後高田地震史料・越後頭城郡吉尾組(桑取谷)地震之節諸事亡所之品書上帳と越後国頸城郡高田領住還破損所絵図" 災害と資料 5. 1-18 (2011)、査読無
 - 54、奥村弘、東日本大震災と歴史学-歴史研究者として何ができるのか-" 歴史学研究 884. 21-26 (2011)、査読無
 - 55、平川新、東日本大震災と歴史の見方、歴史学研究 884. 2-7 (2011)、査読無
 - 56、平川新、古文書を千年後まで残すために、地方史研究 350. 16-19 (2011)、査読無
 - 57、坂江涉、尼崎の砂州地形と呪術・祭祀-津波と大阪湾の潮の流れとの関わりで-、兵庫神祇 589. 13-20 (2011)、査読無
 - 58、松下正和、災害文化の継承に向けて、歴史科学 204. 14-25 (2011)、査読有
 - 59、今津勝紀、古代における災害と社会変容-九世紀後半の危機を中心に-、考古学研究 230. 17-20 (2011)、査読有
 - 60、寺内浩、古代伊予国の俘囚と温泉郡笹原郷、伊予史談 362. 1-8 (2011)、査読有
 - 61、寺内浩、2001年芸予地震時の史料保全とその後、平成 22 年度総括研究会報告書.28-34 (2011)、査読無
 - 62、矢田俊文、明応地震と庄内沖地震の津波被害、季刊東北学 28. 106-113(2011)、査読無
 - 63、矢田俊文、東日本大震災と前近代史研究、歴史学研究 884. 12-15 (2011)、査読無
 - 64、矢田俊文・原直史・中林隆之・池田哲夫・飯島康夫・小野博史・齋藤瑞穂、三・一以後の文化財・歴史史料保全の取り組み-新潟県を中心に-" 新潟史学 66. 55-61 (2011)、査読無
 - 65、多仁照麿、第五十六回敦賀大会後の福井県における地方史研究の動向、地方史研究 350. 64-66 (2011)、査読無
 - 66、足立裕司、時代を継承し、共鳴し合う小林聖心女子学院校舎群、建築人 549.32-34 (2010)、査読無
 - 67、奥村弘、歴史資料ネットワークの15年-被災歴史資料保全の「歴史」を考える、災害と資料 4. 1-7 (2010)、査読無
 - 68、松下正和、風水害による水損歴史資料の保全活動、災害と資料 4. 8-23(2010)、査読無
 - 69、矢田俊文、1828年三条地震による被害分布と震源域の再検討、資料学研究 7.1-14 (2010)、査読有
 - 70、矢田俊文、1828年三条地震における与板町の被害、災害と資料 4. 119-127(2010)、査読無
 - 71、矢田俊文、新潟歴史資料救済ネットワークの5年間の取り組み、災害と資料 4.87-108 (2010)、査読無
 - 72、今津勝紀、『播磨国風土記』揖保郡少宅里条をめぐる、いひほ研究 2.119-127 (2010)、査読無
 - 73、松下正和、地域資料館の意義と役割-山南歴史資料館を例に、歴史と神戸 275.10-20 (2009)、査読無
 - 74、奥村弘、地域歴史文化における大学の役割、LINK 1. 45-63 (2009)、査読無
 - 75、今津勝紀、原始・古代の家族構成について、歴史と地理 225. 24-27 (2009)、査読無
 - 76、松下正和、災害と歴史資料保全、歴史資料の保存と地方史研究(岩田書院)、77-90 (2009)、査読無
 - 77、河野未央、阪神・淡路大震災から関西地区水害対応まで-歴史資料ネットワークの修復活動紹介、罹災文化財救済処置技術意見交換会報告 10-17、88-94 (2009)、査読無
 - 78、松下正和、被害状況の確認方法、罹災文化財救済処置技術意見交換会報告書、88-94、114-115 (2009)、査読無
 - 79、矢田俊文、文化財・歴史資料の救出、地震災害への備えを考える-中越地震・中越沖地震で学んだこと(新潟日報事業社)、38-42 (2009)、査読無
 - 80、今津勝紀、葛城襲津彦-五世紀前半の北東アジア史断章、古代の人物-日出づる国の誕生(清文堂出版)、13-32 (2009)、査読無
 - 81、足立裕司、解題:武田五一の住宅作品と『住宅建築要義』、住宅建築文献集成(柏書房)、797-830 (2009)、査読無

〔主な学会発表〕(計 31 件)

- 1、今津勝紀、仁和三年の南海地震と平安京社会、糸里制・古代都市研究会大会(20120303)、奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂(奈良県)
- 2、平川新、歴史資料と災害への備え、人間文化研究機構・国立民族学博物館公開シンポジウム「文化遺産の復興を支援する-東日本大震災をめぐる活動」(20120318)、国立民族学博物館講堂(大阪府)
- 3、Kazuko Sasaki, "Cooperation and Recovery after the March 11th East Japan Earthquake" ICA (20120822)、ブリスベン(オーストラリア)
- 4、奥村弘、大震災と地域歴史資料保全、歴史資料保全ネットワーク徳島設立集会(20120916)、徳島大学(徳島県)
- 5、奥村弘、神戸の記憶・記録とアーカイブズ、第 17 回情報知識(20121104)、東京大学(東京都)
- 6、松下正和、ケルン市歴史文書館倒壊と市民による救助活動、全史料協・企業史料協主催「資料保存セミナー」(20110204)、埼玉会館(埼玉県)
- 7、松下正和、史料ネットによる水損歴史資料保全活動、神奈川地域史研究会例会(20110205)、神奈川県立公文書館(神奈川県)
- 8、今津勝紀、他県での史料ネット活動の現状-宮城・山形・福島・新潟-、岡山史料ネット講演会(20110205)、岡山県立記録資料館(岡山県)
- 9、松下正和、2004 年京都府北部水害時の歴史資料保全とその課題、日本史研究会 4 月例会(20110423)、機関紙会館(京都府)
- 10、今津勝紀、古代における災害と社会変容-九世紀後半の危機を中心に-、考古学研究会総会(20110424)、岡山大学創立五十周年記念館(岡山県)
- 11、三村昌司、阪神・淡路大震災以降における地域歴史資料の保全活動と活用、檀国大学校付設法学研究所第 35 回国際学術大会「韓中日都市計画における地域社会と立法」(20110506)、檀国大大学院棟 318 号(韓国)(招待講演)
- 12、奥村弘、地域社会の未来のため地域歴史遺産-阪神・淡路大震災の歴史資料保全活動から-、第 16 回東アジア近代史学会研究大会(20110618)、専修大学生田キャンパス(神奈川県)
- 13、平川新、東北関東大震災と歴史資料の救出、史料保存利用問題シンポジウム(20110625)、学習院大学(東京都)(招待講演)
- 14、Japan, Akihito Nishiyama, Kenji Satake, Toshifumi Yata, Atsushi Urabe: "Re-examination of damage distribution and source of the 1751 Takada and 1828 Sanjo earthquakes in central" IUGG2011. (20110630)、メルボルン(オーストラリア)
- 15、FUJIWARA Osamu, HEYVAERT Vanessa, UMITSU Masatomo, SATO Yoshiki, ONO Eisuke, YATA Toshifumi: "The impact of the 1498 Meio earthquake on the river Hamana, Enshunada coastline, Central Japan : evidence from the sedimentary record" INQUA 大会(20110725)、ベルン(スイス)
- 16、矢田俊文、中世・近世の地震災害と「生きていくこと」、日本史研究会(20111008)、京都女子大学(京都府)
- 17、平川新、東日本大震災と歴史資料のレスキュー、地域研究コンソーシアム平成 23 年度 JCAS 年次集会シンポジウム(20111105)、大阪大学(大阪府)(招待講演)
- 18、佐々木和子、記録を作り、記録を残す-次代へ伝える経験-、DJI セミナーチエルノブイリからの伝言-ヒト・放射能・資料-(20111118)、松本大学(長野県)
- 19、Akihito Nishiyama, Kenji Satake, Toshifumi Yata, Atsushi Urabe: "Re-examination of the damage distribution and the source of the 1751 Takada Earthquake in central Japan" AGU Fall Meeting 2011. (20111205-20111209)、サンフランシスコ(アメリカ合衆国)
- 20、平川新、歴史資料保全のための国家的課題-古文書を千年後まで残すために-、人間文化研究機構第 6 回人間文化研究情報資源共有化研究会(20111216)、人間文化研究機構立川事務所(東京都)(招待講演)
- 21、奥村弘、歴史資料ネットワークの構築と活動、千葉県美術館・博物館等職員研修会(20100207)、千葉県立中央博物館講堂(千葉県)
- 22、松下正和、災害文化の継承に向けて、大阪歴科協 3 月例会「大規模災害時における歴史資料保全活動-2009 年台風 9 号豪雨災害における歴史資料ネットワークの活動」(20100314)、大阪市旭区民センター(大阪府)
- 23、松下正和、大規模自然災害時における被災史料保全活動の現状と課題、日本史研究会(20100417)、機関誌会館(京都府)
- 24、矢田俊文、1828 年三条地震による被害分布と震源域の再検討、日本地球惑星科学連合 2010 年大会(20100528)、幕張メッセ国際会議場(千葉県)
- 25、松下正和、災害時の資料救済-歴史文書についてのとりくみ、西日本自然史博物館ネットワーク(20100712)、大阪市立自然史博物館(大阪府)
- 26、坂江渉、阪神・淡路大震災以降の歴史資料の救済・保全活動、2010 年度上智大学ソフィア国際シンポジウム(20101113)、上智大学(東京都)
- 27、河野未央、資料保存ワークショップ、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(20101124)、京都テルサ(京都府)

- 28、奥村弘、災害文化と地域歴史遺産-阪神淡路大震災から考える-、ふくしま歴史資料保存ネットワーク発足記念講演会(20101127)、福島県文化センター(福島県)
- 29、河野未央、風水害からの歴史資料救出と保全-史料の『救命土』を目指して、JHK情報保存研究会「資料保存を实践する-事例から学ぶ現場の知恵」(20091016)、江戸東京博物館(東京都)
- 30、足立裕司、災害時における歴史的環境保全体制の課題-自治体アンケート調査の分析を通じて、日本建築学会歴史・意匠委員会文化遺産災害対策小委員会(20091111)、建築学会会議室(東京都)
- 31、奥村弘、歴史資料ネットワークの15年-被災歴史資料保全の「歴史」を考える、シンポジウム「文化財・歴史資料の保全-災害時の取り組み・日常時の取り組み~2004年水害・地震から5年」(20091205)、新潟大学五十嵐キャンパス総合教育研究棟D棟大会議室(新潟県)
〔図書〕(計12件)
- 1、奥村弘編、歴史文化を大災害から守る-地域歴史資料学の構築-(東京大学出版会)、464(2014)
- 2、矢田俊文・長岡市立中央図書館文書資料室、被災避難所の史料 新潟県中越地震・東日本大震災(新潟大学災害・復興科学研究所危機管理・災害復興分野)、75(2013)
- 3、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター編、「地域歴史遺産」の可能性(岩田書院)、492(2013)
- 4、平川新・今村文彦・東北大学災害科学国際研究所編、東日本大震災を分析する2(震災と人間・まち・記録)(明石書店)、264(2013)
- 5、奥村弘、大震災と歴史資料保存-阪神・淡路大震災から東日本大震災へ-(吉川弘文館)、230(2012)
- 6、平川新・吉田浩監修、富谷町3.11東日本大震災の記録編集委員会編、東日本大震災の記録-内陸部自治体500日の取り組み(宮城県富谷町)、177(2012)
- 7、今津勝紀、日本古代の税制と社会(塙書房)、411(2012)
- 8、新潟大学人文社会・教育科学系附置環東アジア研究センター編、環東アジア地域における社会的結合と災害(新潟大学人文社会・教育科学系附置環東アジア研究センター)、188(2012)
- 9、内田俊秀(共著)、文化財の保存と修復13 みんなの資料をまもる(クパプロ)、67-74(2011)
- 10、平川新・佐藤大介編、東北大学東北アジア研究センター報告3号歴史遺産を未来へ(東北大学東北アジア研究センター)、99(2011)
- 11、矢田俊文、地震と中世の流通(高志書院)

- 227(2010)
- 12、松下正和、水損史料を救う風水害からの歴史資料保全(岩田書院)、158(2009)
〔その他〕
ホームページ
<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~chiiki/>
6. 研究組織
- (1) 研究代表者
奥村 弘(OKUMURA Hiroshi)
神戸大学・人文学研究科・教授
研究者番号: 60185551
- (2) 研究分担者
市沢 哲(ICHIZAWA Tetu)
神戸大学・人文学研究科・教授
研究者番号: 30251862
坂江 渉(SAKAE Wataru)
神戸大学・人文学研究科・講師
研究者番号: 00221995
佐々木 和子(SASAKI Kazuko)
神戸大学・地域連携推進室・研究員
研究者番号: 20437437
平川 新(HIRAKAWA Arata)
東北大学・災害科学国際研究所・教授
研究者番号: 90142900
矢田 俊文(YATA Tshihumi)
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号: 40200521
今津 勝紀(IMAZU Katunori)
岡山大学・社会文化科学研究科・教授
研究者番号: 20269971
小林 准士(KOBAYASHI Junji)
島根大学・法文学部・准教授
研究者番号: 80294354
寺内 浩(TERAUTI Hiroshi)
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号: 40202189
足立 裕司(ADACHI Hiroshi)
神戸大学・工学研究科・教授
研究者番号: 60116184
内田 俊秀(UCHIDA Toshihide)
京都造形芸術大学・芸術学部・教授
研究者番号: 30132822
久留島 浩(KURUSHIMA Hiroshi)
国立歴史民俗博物館・研究部歴史研究系・教授 研究者番号: 30161772
伊藤 明弘(ITOU Akihiro)
佐賀大学・地域学歴史文化研究センター・准教授 研究者番号: 20423494
松下 正和(MATSUSHITA Masakazu)
近大姫路大学・教育学部・講師
研究者番号: 70379329
添田 仁(SOEDA Hitoshi)
茨城大学・人文学部・准教授
研究者番号: 60533586
三村 昌司(MIMURA Shoji)
東京未来大学・モチベーション行動科学科・講師 研究者番号: 40525929